

視察報告書

発行No.	S-161107
作成日	2016.11.11
作成者	佐原充恭

視察地	新宿区役所他	日時	H28.11.7(月) 15:00～16:30
視察テーマ	公共空間を活用した賑わいの創出について		
視察目的	日本有数の繁華街を持つ新宿区が、いかに人を呼び込み、賑わいを創出しているかを学ぶ。		
視察メンバー (敬称略)	会派『市民クラブ』メンバー(中嶋祥元、鈴木浩二、伊藤幸弘、山内智彦、黒川智明、佐原充恭)		

1) 区立公園を活かした賑わいの創出について

資料出展: 新宿区HP

1. 新宿中央公園の概要と賑わい創出の取り組み

- ・面積: 約8万8千m² 水の広場、多目的広場、ジャブジャブ池等あり。
- ・運営方式: 指定管理者「新宿中央公園パークアップ共同体」が運営。

自主事業や地域との連携事業を活発に実施。

- ・イベント事例: 春らんまんパークキッチン(3～4月)、水と緑のイブニングバー(7～9月 約6,000名来場)、新宿中央公園夏祭りなど。

2. 大久保公園の概要と賑わい創出の事例

- ・面積: 約3,300m² スポーツ広場、多目的広場等あり。
- ・特徴: 夜間の悪質な利用防止の為、H22年に全面再整備。**歌舞伎町ルネッサンス(誰でも安心して楽しめるまちづくり)の推進に活用。**
- ・イベント事例: ビアガーデン(オクトーバーフェスト)、ブラインドサッカー大会、激辛グルメ祭など。

3. 課題と今後の取り組み

- ・課題①: 近隣や一部の利用者からの苦情対応(騒音、悪臭、他の利用との競合、周辺飲食店からの苦情等)
- ・課題②: イベント内容の精査(審査方法確立、基準や考え方整理、公共性の担保等)
- ・今後の取り組み(新宿中央公園): 魅力向上のための計画をH29年度に策定。
- ・今後の取り組み(大久保公園): 新たに整備したシネシティ広場との連携イベントの実施。



2) 新宿モア4番街のオープンカフェについて

1. 設置に至る経緯

- ・H15年 モア4番街の違法駐車・駐輪が問題となり、その解決と賑わい創出について区と商店街で検討。
- ・H23年10月 都市再生特別措置法に基づく特例制度を活用したオープンカフェ(年中無休)を設置。
夏季(4～9月)12:00～21:30 冬季(10～3月)12:00～19:30

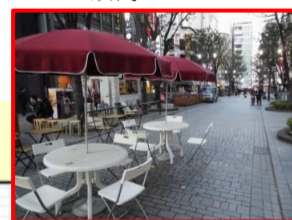
2. 設置効果

- ・**まちの賑わいの創出:** 雰囲気、風格向上。来場者への安全安心感の供与。
- ・**地域との協働体制の確立:** 地域が主体的に道路環境改善に関与。
- ・**道路環境の改善:** 違法駐車・駐輪及びホームレスの激減。

テーブル等の収納ボックス



飲食スペース



入口



デジタルサイネージ



飲食スペース



カフェ(クレープ等販売)

所感: 新宿区の取り組みは、自分が9月定例会で一般質問した「公園の利活用」と狙いは同じ。公園を漫然と維持し続けるのではなく、市や地域コミュニティの様々な事業の受け皿として利用し、再活性化していく重要性を再確認できた。モア4番街の取り組みは、刈谷駅北口の駅前線の一方通行化と重なるが、単に工事を行うだけでは事業効果は得られない。オープンカフェのみならず、市民や来訪者が魅力を感じ、立ち寄りたくなる空間を創出しなくてはならない。市と周辺事業者がうまく連携して欲しい。

視察報告書

発行No. S-161108

作成日 2016.11.11

作成者 佐原充恭

視察地 神奈川県横浜市 横浜スタジアム/横浜市役所 日時 H28.11.8(木) 10:00～11:30/14:00～15:30

視察テーマ **横浜市スポーツ医科学センター/スポーツ推進計画について**

視察目的 スポーツ医科学に基づいた市民の健康づくり、競技力の向上、スポーツ振興の取り組みを学ぶ。

視察メンバー(敬称略) 会派『市民クラブ』メンバー(中嶋祥元、鈴木浩二、伊藤幸弘、山内智彦、黒川智明、佐原充恭)

1)スポーツ医科学センターについて

日産スタジアム内

1.施設の概要及び特徴

- ・所在地:横浜市港北区 日産スタジアム内。
- ・クリニック(内科、スポーツ整形外科等)とスポーツセンター機能を併せ持ち、ドクターがスポーツによるケガや故障に対し、運動療法等を処方する。

2.SPS(スポーツ・プログラム・サービス)とは

- ・医学的検査と体力測定をセットで実施する**スポーツ版人間ドッグ**。
医学的検査(採血・採尿、血圧、体脂肪、骨密度、胸部X線など)
→体力測定(運動負荷心電図、瞬発力、柔軟性、全身持久力、握力など)
→結果説明→栄養講義→個別相談。その日のうちに検査結果をフィードバックし、運動、栄養、生活についてアドバイス。1回15,000円(横浜市民の場合)

3.MEC(メディカル・エクササイズコース)とは

- ・医師の診察の結果、運動により疾患の改善が見込まれる方に運動療法を行う。
整形外科的疾患例:変形性関節症などの腰痛、ひざ痛。
内科的疾患例:高脂血症、肥満、高血圧、糖尿病、心筋梗塞、狭心症など。
- ・H26年度は延13,700人が参加。

4.東京オリンピック、パラリンピックに向けた取り組み

- ・岡部祐介選手(ろう者アスリート)を「特定スポーツ支援選手」に任命し、医科学的サポートを実施。
- ・センター所属の加藤瑛美氏(理学療法士)が、リオパラリンピックのゴールボールチームに帯同。



医科学センター内の様子



2)スポーツ推進計画について

1.スポーツ施設の充実について

- ・**神奈川スケートリンク(愛称:横浜銀行アイスアリーナ)の再整備**
老朽化(築後約60年)対応及び国際規格(60m×30m)充足のため、H27年12月再整備完了。
事業費:約23億円 特徴:リンクの国際規格化、見学ギャラリー整備等。
オフィシャルパートナー:(公財)横浜市体育協会・横浜銀行
事業効果:利用客の増加。スケート教室は約1,000人が在籍。深夜早朝はアイスホッケー使用。
- ・**横浜市文化体育館の再整備**
老朽化(築後約54年)対応及びサブアリーナ設置など機能面強化が目的。H36年共用開始を目指す。
敷地:現体育館と近接する旧横浜高校敷地を活用
事業手法:PFI事業の**BT0方式**
民間事業者が自ら資金調達し、施設の建設後(**B**uild)、その所有権を公共に譲渡(**T**ransfer)した上で施設の管理・運営(**O**perate)を行う方式。

2.トップアスリートとの連携について

- ・**オリンピック、パラリンピアンとの連携事業(H28年度予算 6,055千円)**
講座や学校授業・部活等に市ゆかりの五輪出場経験者を招へいし、スポーツ振興を行う。
招へい選手の例:遠藤彰弘(サッカー)、室伏由佳(陸上)、木村敬一(水泳 パラリンピック) ほか。
- ・**JOC・横浜市パートナー都市協定に基づく事業(H28年度予算 640千円)**
JOCは横浜市のスポーツ振興事業にオリンピック選手を派遣し、横浜市はJOCの合宿等に施設を提供する。
全国22都市がパートナー都市協定を締結している。

所感: 医科学センターのSPSの取り組みは印象的。料金設定が課題で受診者は横ばいとの事だが、現役世代を含め、市民がもっと受診しやすい環境を整備すれば、市民の健康意識は確実に高まるはず。刈谷総合病院の検診センターでこうした取り組みができないものか。横浜市はすでに複数のプロスポーツチームが所在しており、スポーツ振興事業も成熟している印象。刈谷は東京五輪に向け、オリンピック候補や、将来有望なトップレベルの選手を支える体制を更に強化していく必要がある。この事を引き続き提言していきたい。

視察報告書

発行No. S-161109

作成日 2016.11.11

作成者 佐原充恭

視察地 埼玉県戸田市 笹目東小学校

日時

H28.11.9(水) 10:00～12:00

視察テーマ

ICT・ALT教育について

視察目的

ALT(Assistant Learning Teacher)とICT(Information & Communication Technology)教育の先進事例を、実際の授業を見学しながら学ぶ。

視察メンバー
(敬称略)

会派『市民クラブ』メンバー(中嶋祥元、鈴木浩二、伊藤幸弘、山内智彦、黒川智明、佐原充恭)

1)戸田市の教育方針

図表出典元:八王子市HP

障がいがある人を理解するためのガイドブック

1.笹っ子10の約束「にこにこ・きびきび・わくわく」の推進

- ・**にこにこ**元気にあいさつ、時間を守り、**きびきび**行動、何事にも意欲的に**わくわく**取り組むなど10か条を推進。
非認知スキル＝忍耐力や勤勉性、外向性などの人の性格・特性。認知スキル＝勉強、点数化できるもの。

2.新学習指導要領を見すえた授業(抜粋)

- ・読み、書き、計算、ICT活用能力の育成と定着、体験的、問題解決的な学習の充実、**言語活動を充実させ読解力、表現力の育成**、アクティブラーニングの実践による主体的な学ぶ力、**ICT機器を活用した一斉・個別・協働学習の充実。**

2)ICT教育の概要

1.全教室にある機器

- ・大型TV、タブレット型PC、実物大投影装置(みえるもん)、指導用デジタル教科書、無線LAN環境(全教室+体育館)

2.コンピュータ室にある機器

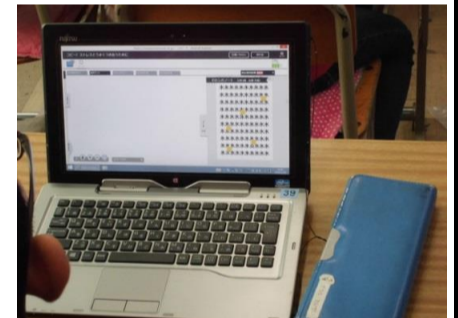
- ・タブレット型PC、ベネッセの学習ソフト(未来シード、オクリンク等)、簡易デジタルカメラ・ムービー(冒険くん)

3.授業でのICT活用

視察当日は、未来シードを使った誤字探しや、ストレスをテーマにした意見交換等を実施。ベネッセの支援員1名が授業をサポート。

- ・体育授業で「技の見える化(跳び方を撮影し、一人ひとりの課題を発見)」。
- ・一斉学習(大型TVで資料提示、情報共有)。
- ・教師用デジタル教科書の提示。
- ・ICTを活用した話し合い、意見交換。
- ・放課後の補充学習で学習支援ソフト活用。

その他の事例



3)ALT教育の概要

1.英語教育を通じて育てたい児童生徒像

- ・誰とでも主体的に関わる、気持ちや考えを英語で伝えあう、豊かな国際性を身に付ける。

2.英語教育の概要

視察当日は、野菜や果物の単語をリズムカルに唱和したり、絵を隠したカードを使い、児童同士で中身を当てあうゲームを行っていた。

- ・週1時間の英語活動を3年生以上で実施。
- ・1・2年生は年10時間の英語活動を実施。
- ・全ての時間がALTと担任によるチームティーチング。ALTは常駐。

3.3ステップカリキュラム

- ・STEP1: **ふれる** = ALTとの会話は全て英語。本物の英語を体験する。
- ・STEP2: **慣れる** = 小さなミスを気にせず英語を使う。
- ・STEP3: **親しむ** = 自分の事を伝えたい、相手の事を知りたい。身近な場面設定の中でコミュニケーション。

所感: 高度情報化社会、企業活動のグローバル化の中で生きる力を育む、また、既存の授業において、児童生徒の理解度を高める上で、ICT活用と英語教育はもはや必須だと感じた。また、多忙な先生方のためには公務のIT化も必要である。先生にゆとりがなければ、ICTも英語教育もうまくいかない。民間のサポート力の活用も必要。笹目東小では、ベネッセの支援員が授業をサポートし、操作がわからない児童をフォローしていた。刈谷市も、先生方の公務負担を十分考慮し、民間の力も借りながら、着実にICT教育を導入して欲しい。